

危機を乗り越えられる人間

株式会社BOOT BLACK JAPAN 代表取締役社長

靴磨き職人 は せがわ ゆうや 長谷川 裕也



20歳の時に東京駅の路上で靴磨きを始めてから早いもので16年が経ちました。まだまだ職人としても経営者としても至らぬことが多く毎日が挑戦と学びの連続です。

現在は東京青山に2店舗、虎ノ門に1店舗、札幌に1店舗Brift Hという名前で靴磨き店を展開しています。

2017年にはロンドンで開催された第1回靴磨き世界大会で優勝し、世界チャンピオンにもなれました。それも、当店には世界中から革靴愛好家が集まります。また、海外に靴磨きを披露しに行ったり、靴磨き大会の審査員として招聘されたりと色々な活動をさせて頂いております。

今は自信を持ってこの仕事が天職だと言えますが、元々靴が好きで始めた仕事ではなく、偶然という名の必然によって出会うべくして出会った天職だと思っています。

【靴磨きとの出会い】

僕は千葉県の本更津市で生まれ育ちました。家は母子家庭で、母親が夜の仕事をしながら育ててくれました。小さい時から「高校を卒業したら働きなさい」と言われていたので、地元の高校を卒業して製鉄所に就職しました。仕事は楽しかったのですが、自分の人生がここで終わる気がしなかったのと、海外へ行きたいという想いが強かったので半年くらいで英会話学校に転職しました。

そこでの経験が強烈で、自分の人生の可能性をとてつもなく広げてくれました。仕事は

英会話学校の生徒の勧誘、教材の販売だったので、完全歩合制でコピー代一枚から自腹。やっただけ収入も増えるという仕事だったので壮絶に働きました。ただ1年半くらいで体調を崩し退職。悔し涙を流した初めての経験でした。

闘志漲る20歳の長谷川青年は日雇いのアルバイトをしながら就職活動をしていましたが、手元の資金が尽き、無一文状態になってしまいました。元手がかからなくてすぐに稼げる仕事はないか？そこで思いついて始めたのが靴磨きでした。100円ショップで靴磨き屋のセットを組みました、初期投資は500円。東京駅に朝8時に行き、夜10時まで磨きました。なんと初日から7千円も稼げました。そこからは靴磨きの仕事に惚れこみ没頭。師匠もいないので手探り、独学で靴磨きをマスターしていきました。23歳の時には路上に行列が出来るような靴磨き店となりました。

【靴磨き専門店を開く】

路上での靴磨きは許可が出ないため、ずっと無許可で営業していました。警察には毎日撤去され、泣く泣く4年弱の路上靴磨きを辞めざるをえない状況になってしまいました。その頃には「日本の足元に革命を！」をモットーに靴磨きで日本を元気にする！という気持ちで靴磨きをしていました。

路上で靴磨きをしていて感じていたのは“靴磨き職人の地位の低さ”“靴磨きというものの価値の低さ”でした。そこで世界一カッコ

いい靴磨き屋をやろうと思い、逆転の発想で高級靴磨き店“Brift H”を2008年に南青山に開店。スーツを着て、目の前でバーテンダーのように靴をパフォーマンス的に磨き上げるというスタイルを確立しました。

現在は職人が10名ほどいる靴磨き店として後進の育成に尽力しています。

【お客様に支持される職人とは】

正直、最初の10年間は自分がメディアに露出すること、お店の売上を上げることで精一杯でした。結果、そこそこまでは認知され売上も上がりましたが、会社としては自分がいなくてはならない脆弱な組織になっていました。そこで2年前に人を育成することを一番の仕事に変えました。

そこで改めて痛感したのは“教育”というものの大切さ、教えることの難しさです。

元来、職人の世界というものは「目で盗め！」「俺の背中を見て勉強しろ！」ということが多いのですが、それだと現代にあいません。丁寧に説明して、やらせて、チェックして、改善を繰り返す。人によってアドバイスの方法を変えたり、言い回しを理解しやすい言葉に変えたりもしました。教えることでこちらもたくさんの学びがあります。

靴磨きという技術は真剣に取り組めば半年もあれば身に付きます。最低限のレベルに達することが出来たとしても、そこからはその人それぞれの「考え方」によって大きな差が出てきます。一見すると単純作業に見える靴磨きですが、靴によって革の状態は様々です。どう磨いて仕上げるかで靴の表情も大きく変わります。濃くするのか？艶は控え



めか？ピカピカか？正解はお客様しか知りません。なのでただ靴磨きをするのではなく、しっかりとお客様と会話をして、職業、ライフスタイル、好みをしっかり聞いた上で一足の靴を最高に魅力的な状態にする。それが出来る職人こそが支持される職人なのです。

【コロナ時代に立ち向かう】

世の中の価値観が大きく変化する時が不意打ちできました。僕ら靴磨き職人を取り巻く環境もとても厳しいです。おうち時間が増えれば外に出かけないので靴は汚れないですし、対面での靴磨きを売りにしていた当店は大打撃を受けました。それはどんな仕事でも大きなダメージを受けたと思います。ただ、業種に限らず、この大きな変化をチャンスに変えることが出来るかどうか。真価が問われる時代とも言えると思います。ここで投げ出したら諦めたらゲーム終了です。僕らはこんな時だからこそ「足元を美しくして人生に輝きを与えよう！」をテーマに、コロナ前より精力的に活動をしています。ピンチが訪れたことで無駄なものが見えました。人の本質も、チャンスも見えました。未来はまだ見えませんが、間違いなく“前向き”“柔軟”“一生懸命”に働く人は益々進化すると思います。

困難が多い時、変化が大きな時こそ人間教育の真価が問われるのだと思います。学校というのはその点でとても大きな影響を与えます。ぜひとも教育にたずさわる皆様には教え子たちに愛情を持って真剣に接して頂けたら幸いです。その経験が世に出た時の糧になるはず。学問よりも人生についての考え方の方がはるかに重要になるので、個人の可能性を最大限引き出して、これからも訪れる危機を乗り越えられる日本国民づくりをお願い申し上げます！